

NEWSWAVE

発行
株式会社 常陽経営コンサルタンツ

新しい時代を切り拓く実践経営情報紙

観光ビジネスの種、さらに深化 ガイドブックにない場所や施設

観光・旅行といえはかつては「るるぶ」（見る・食べる・遊ぶ）が定石だった。しかし、ここ最近では地元企業や団体が自ら観光資源を掘り起こし、CB（コミュニティ・ビジネス）に結びつける観光ビジネスが目を見張る。

新手は「着地型旅行」と呼ばれる地域主導の限定プランで、首都圏中心の大手旅行会社では発掘できないようなメニューを揃える。最大の特徴は、企業設備を見学するのが主目的である産業観光と違い、地域の特徴を生かした体験や交流を重視している点にある。

主な企画を挙げると、化石採掘ツアー（北海道富良野市）は、アンモナイトや二枚貝の化石を探す。青木ヶ原樹海洞窟探検ミステリーコース（山梨県富士河口湖町）は樹海や洞窟、巨木

探しを探検する旅。池島炭鉱さるくプラン（長崎市）は、閉山した炭鉱の掘進現場（地下 65m）までトロッコに乗り石炭掘りを体験できる。さるくは長崎弁で歩くを意味する。他にも信貴山「宿坊玉蔵院」（奈良県生駒市）の僧・尼僧修行体験（座禅や写仏体験）など、ガイドブックにはないミステリーゾーンへ足を踏み入れる冒険心と期待感、緊張感が、旅人を非日常の空間へ呼び寄せているものと思われる。

これらには話題性と歴史、由来が混在しており、旅人を精神的にも「深化」させる何かがある新たな観光客を呼び寄せているとも考えられる。主催が地元公益団体という町もあり、CBに本格的に打ち込む例が増えている。

会計検査院、税金の徴収漏れ指摘 徴収不足は 3 億円増の約 9.7 億円

会計検査院がこのほど公表した 2008 年度決算検査報告によると、各省庁や政府関係機関などの税金のムダ遣いや不正支出、経理処理の不適切などを指摘したのは 717 件、2,364 億 5,000 万円にのぼった。前年度に比べ、指摘件数（昨年度 981 件）は 264 件減ったが、指摘額（同 1,253 億 6,011 万円）では約 2 倍となり、金額は、報告書の掲載基準が現行と同じになった 1978 年度以降では過去最高となった。

財務省に対しては、税金の徴収額の過不足 10 億 2,466 万円が指摘された。指摘されたのは 131 税務署で、納税者 293 人から税金を徴収するにあたり、徴収額が不足していたものが 276 事項 9 億 6,789 万円、徴収額が多すぎたものが 17 事項 5,677 万円だった。

前年度は、118 署において徴収不足が 246 事項、6 億 7,105 万円、徴収過大が 6 事項、677 万円だったので、徴収不足が約 3 億円、徴収過大が 5,000 万円それぞれ増加したことになる。

徴収が過不足だった 293 事項を税目別にみると、「法人税」が 143 事項（うち徴収過大 4 事項）でもっとも多く、以下、「申告所得税」84 事項（同 5 事項）、「相続・贈与税」27 事項（同 4 事項）、「消費税」20 事項（同 4 事項）、「源泉所得税」2 事項となっている。

これらの徴収不足額や徴収過大額があった 293 事項については、会計検査院の指摘後、すべて徴収決定または支払決定の措置がとられている。